

2023年度 第2回 JSSR プロジェクト委員会 議事録

日時:2023年8月15日(火) 20時から21時 (Web開催)

(出席、敬称略):

担当理事:橋爪洋、委員長:海渡貴司、副委員長:宮腰尚久

委員:折田純久、今釜史郎、寺井秀富、若尾典充、後藤励、八木満、手束文威、渡辺慶、高畑雅彦、長田圭司、室谷健太、粕川雄司、尾崎正大、西田周泰、宮崎正志

オブザーバー:波呂浩孝、松山幸弘、有馬秀幸、松倉遊

(欠席、敬称略):大和雄、古矢丈雄、宮城正行、中島宏彰、吉井俊貴、森幹士

議題

1. 橋爪担当理事の挨拶
2. 新規プロジェクト研究 「頸椎術後外固定(頸椎カラー)の有用性について(特定臨床研究)」の進捗および第2の新規研究の必要性について(橋爪担当理事、波呂理事長)
3. 第2の新規プロジェクト研究案
新規プロジェクト研究テーマ 事前打ち合わせに基づき、JOA 診療ガイドラインより、外科治療の臨床画像成績評価に関連し既存エビデンスが乏しいテーマに絞り抽出
案1 腰部脊柱管診療ガイドライン2021 CQ10
「腰部脊柱間狭窄症に対する固定術の骨癒合状態は手術成績に影響を与えるか？」
案2 頸椎症性脊髄症診療ガイドライン2020 CQ3
「固定術の追加は後方除圧術単独に比べ頸椎症性脊髄症に有用か？」
上記案に関し議論した結果、サブグループで目的や方法、意義を含めて議論したのち、再度本委員会で審議する方針となった。
委員先生からの意見
・案1関連:前向きCT撮影の取り扱い(八木委員)、研究の目的・アウトカムの明確化(高畑委員)、骨癒合率が高い中での解析の実現性(寺井委員)
・案2関連:固定を行う頻度が少ない施設での対応(寺井委員)、RCTとして行う必要性(若尾委員)
4. 新規プロジェクト研究担当者選定について(宮腰副委員長)
プロジェクト研究の事務局を務めることの意義は大きく、新メンバーから選出することとなった。案1研究は西田周泰先生、案2研究は粕川雄司先生を中心にサブグループ検討を開始することとなった。
5. 登録終了プロジェクト研究 データ収集・登録状況:解析方法等ロードマップ
 - 腰曲がりに対する運動療法:(寺井先生)
症例集積状況および解析結果公表時期について説明いただいた。

- 頰肩腕症に対する薬物治療（若尾先生、室谷先生）

獲得 QALY、ICER 解析結果、ICER に影響する因子について、解説いただいた。近日中にまず、全体解析結果の論文投稿を行う。

- 神経根ブロック（宮城先生 欠席）

6. 登録中プロジェクト研究

- 1 度すべりに対する除圧 vs 固定術（尾崎先生）
- 成人脊柱変形に対する手術治療（有馬先生）
- 腰曲がりに対する保存治療（長田先生）

症例登録状況の報告をいただいた、全体に症例登録数は研究開始時から減少傾向にあり、各施設で漏れなく、症例登録に努めることを再度確認した。

7. 橋爪担当理事からの総括、松山前理事長からのご発言

8. 今後の予定

新規プロジェクト研究内容に関する

2023 年 11 月頃（Web 開催）